



# 少年センターだより



令和5年9・10月号 (第426号)

毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく！ 第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話、家族の輪

## 大人が変われば子どもも変わる

7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に伴い、長崎県では「ココロねっこ運動強調月間」が展開されました。ココロねっこ運動とは、子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。市内で行われた主な取組を紹介します。



## ○非行事故防止キャラバン

市内の各健全協と少年センターでそれぞれの小学校区を巡回（14地区）し、青少年の非行・被害防止の広報活動や集団下校の見守り、危険箇所の点検等を行いました。夏休みに入り、帰宅時刻が遅くなったり水の事故等に巻きこまれたりしないように注意を促す放送を流しながら大村市内全ての学校の校区を回りました。



このキャラバンも各地区たった一度の広報活動かもしれませんが、放送から流れる非行防止の声が一人でも二人でも心に届いてより良い方向にいてくれればと願うばかりです。ご協力くださった方々本当にありがとうございました。

## ○立入調査

少年センターと市安全対策課が中心となり、大村市健全協、大村市補導協、大村市PTA連合会、市内中学校・高校の代表の先生方に協力していただき、立入調査を実施しました。この調査では、63店舗の書店やコンビニ、DVD等を扱う店舗、カラオケボックスやゲームセンター、携帯電話販売店等を訪問し、県少年保護育成条例に則って営業されているかを確認しました。

## 夏の風物詩



今年も8月1日の花火大会を皮切りに2日、3日に盛大に夏越まつりが開催されました。天候にも恵まれ星空がきれいな祭りの開催となりました。リズムの良い太鼓の響き、法被をなびかせて踊る若者、かき氷をおいしそうに頬張る子どもたち…そんな楽しそうな景色の裏で、実はたくさんの方々に協力していただき「夏越まつり特別補導」を行いました。

大村市少年補導委員、大村地区少年補導委員、大村市PTA連合、各高校の先生方総勢305名の協力を得て補導活動を行いました。遅くまで公園等にいる子どもたちに早く帰るように声をかけたり、自転車の無灯火を注意したりしました。大きな問題事案は報告がなかったのですが、「高校生以下は21時まで」という約束が守られずに遅くまで残っていた子どもたちが多くいた中で、まつりが

進められていたのは残念でした。大人が約束を守る姿勢を見せることが、子どもたちの健全育成の第一歩だと思います。

## ヘルメットの大切さ

長崎県警が7月に発表したデータによると大村市の交通事故の発生件数は7月末現在で139件で、昨年度の同時期と比べると28件増加しているそうです。大村市では、自転車の登下校が県内で一番多く交通事故が心配されます。自転車の運転マナー改善や交通規則を守ることで防ぐことのできる事故もあります。

また、自転車死亡事故の約7割が頭部に致命傷を負っています。あるデータによると、ヘルメット着用により死亡リスクは4分の1に抑えられるとありました。ヘルメットは、努力義務とありますが、失った命は二度と戻ることはありません。後悔しないためにも、ぜひヘルメットを着用してもらいたいと思います。

### ＜ 連載コラム ＞

一度は聞いたことがあると思います。ディズニーランドにはゴミが落ちていない。それは清掃員の方が定期的に見回りをしてこまめに掃除しているからで、きれいにしていると、お客も捨てたりしなくなる。結果、美しさが継続していく。これは、有名な「割れ窓理論」を応用した実践です。割れ窓理論とは、割れた窓をほおっておくと、これくらい、やってもいいやと思う人が増え、周囲の環境が悪くなり、いずれ町全体が荒廃していくというものです。そんなに単純なものではないと批判もありますが、ニューヨークや京都府などの実践で一定の成果は出ているようです。

学校では定石とも言える考え方です。教室やトイレのガラスのひびや落書きを放置しておくと、モラルが低下するのか、同じようなことが起きやすくなる。そして、次第に学校は落ち着かなくなり、事故や事件が起きる可能性が高まる。実際、私も経験しましたし、すぐ手を打つことの大切さを意識するようになりました。いじめや学級崩壊も同じメカニズムで説明できます。早期発見、早期対応、そして対応の継続が大切だと今でも思っています。

健全育成の世界では、窓割れ理論を知らずとも、当たり前のように実践してきました。1回目のコラムでふれた補導の巡視はその一つです。これまで長い間、補導巡視は夜間の徘徊や非行防止の一助になってきたのは確かです。時代は変わり、子どもを取り巻く環境も変わり、巡視をしても出会う事例は激減しています。意義を問う声も聞かれます。方法や形式は今後検討すべき課題だと考えますが、ただ、何も無いことを確認し、割れ窓をつくらぬ地道な活動の価値はだれも否定できないと考えます。

他にも有害図書を子どもの目から隠す白ポストがあります。わんわんパトロールやあいさつ運動も地域から割れ窓を減らす活動といえます。地域が元気で交流が盛んであれば、犯罪の未然防止にもつながります。

割れ窓を放置しない取組で、大村市が健やかな町でいられるように、まずは自分が実践できることを続けていきたいものです。



青少年に関する相談は少年センター(月～金 8:30～17:15)へ  
☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263  
☆Eメール相談 : [kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp](mailto:kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp)